



小金小だより 11月号

令和5年10月31日
松戸市立小金小学校
校長 西郡 泰樹

校訓 なかよく・ただしく・たくましく

「創立150周年記念式典」とこれからの学び

10月28日、小金小学校創立150周年記念式典が行われました。これまで約3年の間、準備を進めてきました。節目節目で周年行事を行います。やはり100年という節目の次に、50年という節目は大きなものです。しかしそこは50年前とは時代が違います。あまり派手でなく、でもきちんとしたものにするにはどういうものにするのがよいのか考えてきました。その中で一番考えたのは、やはり子どもたちの心に残るものにしたいという思いです。仮に創立200周年のことを考えてみると、在校している子どもたちは親の世代から祖父母の世代となっていることが想定されます。その時に今回のことを覚えてくれていたらとても嬉しいと思うからです。そういうものにするのができたでしょうか。



これまでの100年、150年、学校は大きな変化もなく続いてきました。しかしこれからの50年は大きな変革があることが予想されます。少子化の時代となり、AIが進化し、多様な学びの形ができてくるのではないのでしょうか。そうすると、創立200年の頃の小金小学校はどうなるのでしょうか。今回の周年事業で作成した『黄金少年冒険記』の最後の章ではありませんが、ちょっと想像が付きません。しかし、『学ぶ』ということはきっと続いているはず。いや続けていかなければいけないと思います。「よみ、かき、そろばん」から始まった学校での学びは、令和の時代となりタブレットを使用し、登校しなくても配信という形で授業を受けられるようになりました。学びの内容も、未来の社会に対応できるようにと変わってきています。そうした学びは、覚えることよりも考えることや表現することに重点が置かれています。知識の多さが重要なのではなく、知識を活用することが大切だということなのでしょう。しかし、脳の成長が著しい小学生にとっては、地頭を鍛えるために、覚えるということも決しておろそかにしてはいけないと思うのです。こつこつとドリル学習を繰り返し取り組んでいくことや、読書、音読、暗唱などを行うことは、頭だけでなく心も鍛え、人としての豊かさも身につけていくことになるのだと思います。

さて、2学期も残すところ2か月となりました。朝晩に秋の気配を感じつつも、寒さがより厳しくなります。今月も地域の皆様、保護者の皆様には本校の教育活動にご理解ご協力をいただきますよう、よろしくお願いたします。

教育はみんなで 校長 西郡 泰樹

創立150周年記念式典

